

毛呂山町 文化財散策マップ(4)

中世から江戸時代の信仰の足跡を訪ねて
(小田谷・大谷木・宿谷・葛貫方面)

中世の毛呂山には、藤原氏の血筋をひき、源頼朝の側近として活躍した御家人であった毛呂氏や、児玉党に属するといわれる宿谷氏などの武蔵武士がいました。

現在、町内には武士の時代をしのばせる多くの文化財が残されています。

毛呂山町歴史民俗資料館

〒350-0432
埼玉県入間郡毛呂山町大字大類535番地1
TEL 049(295)8282 FAX 049(295)8297

《まめ知識：路傍の石仏④》

江戸時代になり、道徳思想の普及で仏教信仰が盛になると、多くの石仏や石塔が建てられました。そんな「路傍の石仏」の中でも数多く目にするものを、まめ知識としてとりあげてゆくことにしましょう。

《馬頭観音(馬頭尊)》

馬頭観音はヒンドゥー教のビシュヌ神の化身のひとつが仏教に取り入れられたものといわれ、他の観音が慈悲の相であるのに対し、憤怒の相をしていることが大きな特徴といえるでしょう。集団から個人まで、広く支持された理由は頭に戴く馬の頭にあるといわれます。牛馬は当時の庶民生活に欠かせない家族同様の存在であり、馬は主として交通にその活躍の場がありました。馬頭観音は、こうして人間のために働いてくれた馬の供養の意味を強めるとともに、峠や交通の難所、村外れの道分などに多く建てられたのです。

毛呂山町きっての景勝地である鎌北湖は、桜や紅葉の美しさがテレビや雑誌等で紹介されて有名になりました。大谷木川をせき止めて造られた人造湖で、有効水深は約20m、満水時の貯水量は約300,000m³、昭和10年に7年の歳月をかけて完成しました。現在も灌漑用水として利用されていますが、平成6・7年度に実施された埼玉県内の近代化遺産の調査結果では、入間地方における大規模な灌漑用水の先駆的な例であり、とても重要であるとの位置付けがされています。



鎌北湖

北の地蔵
江戸時代中ごろの天明年間、北で起こった凶作の被害をくい止めてもらおうとして建立されたため、北を向いているのだといわれています。

江戸時代の書物にも登場する宿谷の滝は、当時「信多瀬」と呼ばれていたようです。また、古く修験の場でもありました。真夏でも涼やかな場所で、ハイキングの際には一服の清涼剤となってくれることでしょう。また、崖上には宿谷の滝上公園が設置されています。



宿谷の滝

ここから先は車では行けません。

《一口メモ①》

●出雲伊波比神社本殿(国指定重要文化財・建造物)
町の中央部、臥竜山の山頂にあるのが出雲伊波比神社です。

出雲伊波比神社は、景行天皇の43年に、東国の夷を討伐するために派遣された日本武尊が、戦いに勝って帰る途中に立ち寄り、天皇から賜った比々羅木の幹を納めて神宝とし、創建させたのが始まりといわれています。

本殿は、一度は焼失してしまいましたが、大永8年(1528年)に毛呂頼繁の手によって再建されました。一間社流造の建築様式である本殿は、埼玉県内最古の寺社建築であり、再建当時の様子を今に伝える貴重な文化遺産であるとして、昭和28年に国指定重要文化財の指定を受けました。また、再建時の棟札が残されており「本殿付棟札」として同じく国指定重要文化財となっています。

●出雲伊波比神社のやぶさめ(埼玉県指定無形民俗文化財)
出雲伊波比神社で春と秋に奉納されている流鏑馬は、康平6年(1063年)源頼義・義家父子が奥州を平定した際の凱旋の折り、戦勝の御礼に流鏑馬を奉納したのが起源といわれます。

埼玉県内で流鏑馬を行っているのは、都幾川村の萩日吉神社と当地だけとなりました。県内でも希少なこの祭りは、平成17年3月に埼玉県指定無形民俗文化財に指定されました。

また、春の流鏑馬では6歳未満の幼児が乗り子となり、「願的」という儀式が行われます。このとき、乗り子の頭上には「オカイドリ」とよばれる小袖の着物が付き添います。これは幼な子を守る母親の象徴といわれています。

勇壮な若武者が疾駆する秋の流鏑馬は毎年11月3日、馬上の幼な子を見守るほのぼのとした春の流鏑馬は3月の第2日曜日に開催されます。

みたらせ池
やぶさめ祭りでは常に神聖な場所とされ、乗子の鞍や馬の口すきがここでも行われます。

八高線毛呂駅
昭和8年、八高線の開通に伴って開業されました。その当時の駅舎の一部が現在でも残っています。

毛呂氏館跡
中世の武士・毛呂氏の館があったといわれ、現在でも土塁が良好に残されています。埼玉県指定重要遺跡です。

長栄寺
大永5年(1525年)、毛呂土佐頭重が創建したとされる長栄寺には、毛呂氏の墓と伝えられる塔があります。昭和39年に毛呂山町指定文化財となっています。

山根神社
大谷木農村公園
滝田の石橋供養塔
西ノ前の地蔵菩薩
毛呂山総合公園
宝福寺
住吉四所神社
至日高・飯能

このあたりでは、時期が合えば、ホタルを見ることができます。こうした清流は、いつまでも残してゆきたいものですね。

宿谷の地蔵尊
寛文12年(1673年)に宿谷重本により、本人のみならず、宿谷の地に住む多くの人の幸福を祈願して建立されました。高さ133cmもあります。平成2年に毛呂山町指定文化財となりました。

六角の巡拝塔
6枚の板碑が六角形の台石の上に立て6角の筒形をなしており、上には六角形の笠石が乗せられています。高さは約115cmで、残念ながらことに本来6枚あるはずの内の1枚が、いつの頃からか紛失したままとなっています。昭和6年、埼玉県指定文化財となりましたが、当時はまだ山根村であったことから「山根六角塔」の名称となりました。

日高市

坂戸市

東毛呂駅

武州長瀬駅

東武鉄道越生線

JR八高線

交通量が多く、歩道もないので、安全のため、できるだけ県道には出ないようにしましょう。

白樺派の文豪武者小路実篤が自他共生の理想を掲げて、その実現のため開村したのが「新しき村」です。当初は、宮崎県児湯郡木城村に営まれていましたが、昭和13年にダム建設により水没することとなり、翌年9月、当地に現在の新しき村が開村されたのです。

●一本松の碩布の句碑(町指定文化財)
川村碩布は、江戸時代の中頃、毛呂郷馬場村(現在の大字毛呂本郷)の名主の家に生まれました。春秋庵加舎白雄に俳諧を学び、ついには三世春秋庵と称するまでの大家となります。

「色かえぬ かはりやまつに 秋の声」と碑面に刻まれた句は、紅葉狩りの帰り道すがら、当時ここにあった老松の松籟(松を吹く風の音)を耳にしての即吟といわれている句ですが、この句を後年になって無窮庵太魯が句碑として建立したものです。

●嘉元の板碑(町指定文化財)
全長約3m40cm。町を代表するこの大型板碑は、嘉元四年(1306年)の銘が刻まれていることから「嘉元の板碑」と呼ばれています。長い年月、風雪に耐えてきたことを物語るかのように、現在に至っては判読が難しくなった文字も多くなりました。

嘉元の板碑のある地域は、もともと宝福寺があったという伝承がありますが、定かではありません。

《一口メモ②》

～文化財散策モデルコース～
(約13km・所要時間徒歩約5～6時間)

JR八高線毛呂駅 → 図書館(月曜休館・トイレあり) → みたらせ池 → 出雲伊波比神社(トイレあり) → 柳橋の馬頭観音と地蔵菩薩 → 一本松の碩布の句碑 → 嘉元の板碑 → 住吉四所神社 → 西ノ前の地蔵菩薩 → 滝田の石橋供養塔 → 毛呂山総合公園(トイレあり) → 宿谷の滝入り口(トイレあり) → 宿谷の滝 → 宿谷の滝上公園(ごみ箱・トイレはありません) → 宿谷の地蔵尊 → 山根六角塔 → 六角の巡拝塔 → 大谷木農村公園(トイレあり) → 石原ヶ谷戸の馬頭尊 → 山根神社 → 宝福寺 → 長栄寺 → 毛呂氏の墓 → 毛呂氏館跡 → 毛呂駅

新しき村

坂戸市

至日高・飯能

毛呂山町

東毛呂駅

武州長瀬駅

東武鉄道越生線

JR八高線

交通量が多く、歩道もないので、安全のため、できるだけ県道には出ないようにしましょう。

白樺派の文豪武者小路実篤が自他共生の理想を掲げて、その実現のため開村したのが「新しき村」です。当初は、宮崎県児湯郡木城村に営まれていましたが、昭和13年にダム建設により水没することとなり、翌年9月、当地に現在の新しき村が開村されたのです。

●一本松の碩布の句碑(町指定文化財)
川村碩布は、江戸時代の中頃、毛呂郷馬場村(現在の大字毛呂本郷)の名主の家に生まれました。春秋庵加舎白雄に俳諧を学び、ついには三世春秋庵と称するまでの大家となります。

「色かえぬ かはりやまつに 秋の声」と碑面に刻まれた句は、紅葉狩りの帰り道すがら、当時ここにあった老松の松籟(松を吹く風の音)を耳にしての即吟といわれている句ですが、この句を後年になって無窮庵太魯が句碑として建立したものです。

●嘉元の板碑(町指定文化財)
全長約3m40cm。町を代表するこの大型板碑は、嘉元四年(1306年)の銘が刻まれていることから「嘉元の板碑」と呼ばれています。長い年月、風雪に耐えてきたことを物語るかのように、現在に至っては判読が難しくなった文字も多くなりました。

嘉元の板碑のある地域は、もともと宝福寺があったという伝承がありますが、定かではありません。

《一口メモ②》

～文化財散策モデルコース～
(約13km・所要時間徒歩約5～6時間)

JR八高線毛呂駅 → 図書館(月曜休館・トイレあり) → みたらせ池 → 出雲伊波比神社(トイレあり) → 柳橋の馬頭観音と地蔵菩薩 → 一本松の碩布の句碑 → 嘉元の板碑 → 住吉四所神社 → 西ノ前の地蔵菩薩 → 滝田の石橋供養塔 → 毛呂山総合公園(トイレあり) → 宿谷の滝入り口(トイレあり) → 宿谷の滝 → 宿谷の滝上公園(ごみ箱・トイレはありません) → 宿谷の地蔵尊 → 山根六角塔 → 六角の巡拝塔 → 大谷木農村公園(トイレあり) → 石原ヶ谷戸の馬頭尊 → 山根神社 → 宝福寺 → 長栄寺 → 毛呂氏の墓 → 毛呂氏館跡 → 毛呂駅

新しき村

坂戸市

至日高・飯能

毛呂山町

東毛呂駅

武州長瀬駅

東武鉄道越生線

JR八高線

交通量が多く、歩道もないので、安全のため、できるだけ県道には出ないようにしましょう。

白樺派の文豪武者小路実篤が自他共生の理想を掲げて、その実現のため開村したのが「新しき村」です。当初は、宮崎県児湯郡木城村に営まれていましたが、昭和13年にダム建設により水没することとなり、翌年9月、当地に現在の新しき村が開村されたのです。

●一本松の碩布の句碑(町指定文化財)
川村碩布は、江戸時代の中頃、毛呂郷馬場村(現在の大字毛呂本郷)の名主の家に生まれました。春秋庵加舎白雄に俳諧を学び、ついには三世春秋庵と称するまでの大家となります。

「色かえぬ かはりやまつに 秋の声」と碑面に刻まれた句は、紅葉狩りの帰り道すがら、当時ここにあった老松の松籟(松を吹く風の音)を耳にしての即吟といわれている句ですが、この句を後年になって無窮庵太魯が句碑として建立したものです。

●嘉元の板碑(町指定文化財)
全長約3m40cm。町を代表するこの大型板碑は、嘉元四年(1306年)の銘が刻まれていることから「嘉元の板碑」と呼ばれています。長い年月、風雪に耐えてきたことを物語るかのように、現在に至っては判読が難しくなった文字も多くなりました。

嘉元の板碑のある地域は、もともと宝福寺があったという伝承がありますが、定かではありません。

《一口メモ②》

～文化財散策モデルコース～
(約13km・所要時間徒歩約5～6時間)

JR八高線毛呂駅 → 図書館(月曜休館・トイレあり) → みたらせ池 → 出雲伊波比神社(トイレあり) → 柳橋の馬頭観音と地蔵菩薩 → 一本松の碩布の句碑 → 嘉元の板碑 → 住吉四所神社 → 西ノ前の地蔵菩薩 → 滝田の石橋供養塔 → 毛呂山総合公園(トイレあり) → 宿谷の滝入り口(トイレあり) → 宿谷の滝 → 宿谷の滝上公園(ごみ箱・トイレはありません) → 宿谷の地蔵尊 → 山根六角塔 → 六角の巡拝塔 → 大谷木農村公園(トイレあり) → 石原ヶ谷戸の馬頭尊 → 山根神社 → 宝福寺 → 長栄寺 → 毛呂氏の墓 → 毛呂氏館跡 → 毛呂駅

新しき村

坂戸市

至日高・飯能

毛呂山町

東毛呂駅

武州長瀬駅

東武鉄道越生線

JR八高線

交通量が多く、歩道もないので、安全のため、できるだけ県道には出ないようにしましょう。

白樺派の文豪武者小路実篤が自他共生の理想を掲げて、その実現のため開村したのが「新しき村」です。当初は、宮崎県児湯郡木城村に営まれていましたが、昭和13年にダム建設により水没することとなり、翌年9月、当地に現在の新しき村が開村されたのです。

●一本松の碩布の句碑(町指定文化財)
川村碩布は、江戸時代の中頃、毛呂郷馬場村(現在の大字毛呂本郷)の名主の家に生まれました。春秋庵加舎白雄に俳諧を学び、ついには三世春秋庵と称するまでの大家となります。

「色かえぬ かはりやまつに 秋の声」と碑面に刻まれた句は、紅葉狩りの帰り道すがら、当時ここにあった老松の松籟(松を吹く風の音)を耳にしての即吟といわれている句ですが、この句を後年になって無窮庵太魯が句碑として建立したものです。

●嘉元の板碑(町指定文化財)
全長約3m40cm。町を代表するこの大型板碑は、嘉元四年(1306年)の銘が刻まれていることから「嘉元の板碑」と呼ばれています。長い年月、風雪に耐えてきたことを物語るかのように、現在に至っては判読が難しくなった文字も多くなりました。

嘉元の板碑のある地域は、もともと宝福寺があったという伝承がありますが、定かではありません。

《一口メモ②》

～文化財散策モデルコース～
(約13km・所要時間徒歩約5～6時間)

JR八高線毛呂駅 → 図書館(月曜休館・トイレあり) → みたらせ池 → 出雲伊波比神社(トイレあり) → 柳橋の馬頭観音と地蔵菩薩 → 一本松の碩布の句碑 → 嘉元の板碑 → 住吉四所神社 → 西ノ前の地蔵菩薩 → 滝田の石橋供養塔 → 毛呂山総合公園(トイレあり) → 宿谷の滝入り口(トイレあり) → 宿谷の滝 → 宿谷の滝上公園(ごみ箱・トイレはありません) → 宿谷の地蔵尊 → 山根六角塔 → 六角の巡拝塔 → 大谷木農村公園(トイレあり) → 石原ヶ谷戸の馬頭尊 → 山根神社 → 宝福寺 → 長栄寺 → 毛呂氏の墓 → 毛呂氏館跡 → 毛呂駅

新しき村

坂戸市

至日高・飯能

毛呂山町

東毛呂駅

武州長瀬駅

東武鉄道越生線

JR八高線

交通量が多く、歩道もないので、安全のため、できるだけ県道には出ないようにしましょう。

白樺派の文豪武者小路実篤が自他共生の理想を掲げて、その実現のため開村したのが「新しき村」です。当初は、宮崎県児湯郡木城村に営まれていましたが、昭和13年にダム建設により水没することとなり、翌年9月、当地に現在の新しき村が開村されたのです。

●一本松の碩布の句碑(町指定文化財)
川村碩布は、江戸時代の中頃、毛呂郷馬場村(現在の大字毛呂本郷)の名主の家に生まれました。春秋庵加舎白雄に俳諧を学び、ついには三世春秋庵と称するまでの大家となります。

「色かえぬ かはりやまつに 秋の声」と碑面に刻まれた句は、紅葉狩りの帰り道すがら、当時ここにあった老松の松籟(松を吹く風の音)を耳にしての即吟といわれている句ですが、この句を後年になって無窮庵太魯が句碑として建立したものです。

●嘉元の板碑(町指定文化財)
全長約3m40cm。町を代表するこの大型板碑は、嘉元四年(1306年)の銘が刻まれていることから「嘉元の板碑」と呼ばれています。長い年月、風雪に耐えてきたことを物語るかのように、現在に至っては判読が難しくなった文字も多くなりました。

嘉元の板碑のある地域は、もともと宝福寺があったという伝承がありますが、定かではありません。

《一口メモ②》

～文化財散策モデルコース～
(約13km・所要時間徒歩約5～6時間)

JR八高線毛呂駅 → 図書館(月曜休館・トイレあり) → みたらせ池 → 出雲伊波比神社(トイレあり) → 柳橋の馬頭観音と地蔵菩薩 → 一本松の碩布の句碑 → 嘉元の板碑 → 住吉四所神社 → 西ノ前の地蔵菩薩 → 滝田の石橋供養塔 → 毛呂山総合公園(トイレあり) → 宿谷の滝入り口(トイレあり) → 宿谷の滝 → 宿谷の滝上公園(ごみ箱・トイレはありません) → 宿谷の地蔵尊 → 山根六角塔 → 六角の巡拝塔 → 大谷木農村公園(トイレあり) → 石原ヶ谷戸の馬頭尊 → 山根神社 → 宝福寺 → 長栄寺 → 毛呂氏の墓 → 毛呂氏館跡 → 毛呂駅

新しき村

坂戸市

至日高・飯能

毛呂山町

東毛呂駅

武州長瀬駅

東武鉄道越生線

JR八高線

交通量が多く、歩道もないので、安全のため、できるだけ県道には出ないようにしましょう。

白樺派の文豪武者小路実篤が自他共生の理想を掲げて、その実現のため開村したのが「新しき村」です。当初は、宮崎県児湯郡木城村に営まれていましたが、昭和13年にダム建設により水没することとなり、翌年9月、当地に現在の新しき村が開村されたのです。

●一本松の碩布の句碑(町指定文化財)
川村碩布は、江戸時代の中頃、毛呂郷馬場村(現在の大字毛呂本郷)の名主の家に生まれました。春秋庵加舎白雄に俳諧を学び、ついには三世春秋庵と称するまでの大家となります。

「色かえぬ かはりやまつに 秋の声」と碑面に刻まれた句は、紅葉狩りの帰り道すがら、当時ここにあった老松の松籟(松を吹く風の音)を耳にしての即吟といわれている句ですが、この句を後年になって無窮庵太魯が句碑として建立したものです。

●嘉元の板碑(町指定文化財)
全長約3m40cm。町を代表するこの大型板碑は、嘉元四年(1306年)の銘が刻まれていることから「嘉元の板碑」と呼ばれています。長い年月、風雪に耐えてきたことを物語るかのように、現在に至っては判読が難しくなった文字も多くなりました。

嘉元の板碑のある地域は、もともと宝福寺があったという伝承がありますが、定かではありません。

《一口メモ②》

～文化財散策モデルコース～
(約13km・所要時間徒歩約5～6時間)

JR八高線毛呂駅 → 図書館(月曜休館・トイレあり) → みたらせ池 → 出雲伊波比神社(トイレあり) → 柳橋の馬頭観音と地蔵菩薩 → 一本松の碩布の句碑 → 嘉元の板碑 → 住吉四所神社 → 西ノ前の地蔵菩薩 → 滝田の石橋供養塔 → 毛呂山総合公園(トイレあり) → 宿谷の滝入り口(トイレあり) → 宿谷の滝 → 宿谷の滝上公園(ごみ箱・トイレはありません) → 宿谷の地蔵尊 → 山根六角塔 → 六角の巡拝塔 → 大谷木農村公園(トイレあり) → 石原ヶ谷戸の馬頭尊 → 山根神社 → 宝福寺 → 長栄寺 → 毛呂氏の墓 → 毛呂氏館跡 → 毛呂駅

新しき村

坂戸市

至日高・飯能

毛呂山町

東毛呂駅

武州長瀬駅

東武鉄道越生線

JR八高線

交通量が多く、歩道もないので、安全のため、できるだけ県道には出ないようにしましょう。

白樺派の文豪武者小路実篤が自他共生の理想を掲げて、その実現のため開村したのが「新しき村」です。当初は、宮崎県児湯郡木城村に営まれていましたが、昭和13年にダム建設により水没することとなり、翌年9月、当地に現在の新しき村が開村されたのです。

●一本松の碩布の句碑(町指定文化財)
川村碩布は、江戸時代の中頃、毛呂郷馬場村(現在の大字毛呂本郷)の名主の家に生まれました。春秋庵加舎白雄に俳諧を学び、ついには三世春秋庵と称するまでの大家となります。

「色かえぬ かはりやまつに 秋の声」と碑面に刻まれた句は、紅葉狩りの帰り道すがら、当時ここにあった老松の松籟(松を吹く風の音)を耳にしての即吟といわれている句ですが、この句を後年になって無窮庵太魯が句碑として建立したものです。

●嘉元の板碑(町指定文化財)
全長約3m40cm。町を代表するこの大型板碑は、嘉元四年(1306年)の銘が刻まれていることから「嘉元の板碑」と呼ばれています。長い年月、風雪に耐えてきたことを物語るかのように、現在に至っては判読が難しくなった文字も多くなりました。

嘉元の板碑のある地域は、もともと宝福寺があったという伝承がありますが、定かではありません。

《一口メモ②》

～文化財散策モデルコース～
(約13km・所要時間徒歩約5～6時間)

JR八高線毛呂駅 → 図書館(月曜休館・トイレあり) → みたらせ池 → 出雲伊波比神社(トイレあり) → 柳橋の馬頭観音と地蔵菩薩 → 一本松の碩布の句碑 → 嘉元の板碑 → 住吉四所神社 → 西ノ前の地蔵菩薩 → 滝田の石橋供養塔 → 毛呂山総合公園(トイレあり) → 宿谷の滝入り口(トイレあり) → 宿谷の滝 → 宿谷の滝上公園(ごみ箱・トイレはありません) → 宿谷の地蔵尊 → 山根六角塔 → 六角の巡拝塔 → 大谷木農村公園(トイレあり) → 石原ヶ谷戸の馬頭尊 → 山根神社 → 宝福寺 → 長栄寺 → 毛呂氏の墓 → 毛呂氏館跡 → 毛呂駅

新しき村

坂戸市

至日高・飯能

毛呂山町

東毛呂駅

武州長瀬駅

東武鉄道越生線

JR八高線

交通量が多く、歩道もないので、安全のため、できるだけ県道には出ないようにしましょう。

白樺派の文豪武者小路実篤が自他共生の理想を掲げて、その実現のため開村したのが「新しき村」です。当初は、宮崎県児湯郡木城村に営まれていましたが、昭和13年にダム建設により水没することとなり、翌年9月、当地に現在の新しき村が開村されたのです。

●一本松の碩布の句碑(町指定文化財)
川村碩布は、江戸時代の中